言語にする能力

野瀬　隆平

生成 AI の進歩がすさまじい。AI に取って代わられる仕事は、「答えが一つしか無く、誰がやっても同じ結果になる」多くの仕事であろう。

従って、これから人間が社会生活を送る上で、必要とされる知識、能力は大きく変わって行かざるを得ない。

最も重要だと思われるのは、自分の頭の中で考えている事を言葉に変える力、「言語化の能力」だ。「考える」こと自体、言葉をツールとして築きあげるくしかないのを考えると、言語の重要性は当然のことである。

人が他人に自分の考えを伝えるのも言語であるし、AI を活用するにあたり、指示を与え対話するのも言語である。仮に、文字で打ちこむのではなく、音声で対話する場合もしかり。

習得すべきものとして欠かせないのは、広い分野に於ける基礎的な知識であろう。世界の情勢、科学技術、歴史や文化・芸術についての、少なくとも高校生程度の知識は必要である。それが無ければ AI を活用するにしても、そもそも問いが発せられないし、返って来た答えを理解することもできない。歴史について云うならば、細かい年号などは覚える必要はなかろうが、大きな流れが分っていなければ理解できない。

語学については基礎的な知識は必要だが、各国の複雑な言葉を憶えておく必要は必ずしもない。自動翻訳機能を活用すれば良い。

また、次々と AI が生み出す情報を並べて一つの体系として築きあげるには、物事の根本的な原理を理解し論理的に考える能力が求められる。

もう一つ加えるならば、人に何かに興味を抱かせる「情動」とでも云えるもが無ければならない。何事かに関心を抱き、その事について知ろうという興味がわかない限り、AI という便利なツールを使って詳しく知ろうとしないからである。

それにしても、最近の世の中の変化は激しく、少し先に何が起こるのか予想するのが難しい。その様な不安定な状況の中でも、着実に生き長らえるために、以上に掲げた能力の他に何か重要なものがあるのかも知れない